

大西永昭 准教授・修士(教育)	E-mail	oonishi@matsue-ct.jp
	専門分野	日本近代文学

対応可能な分野

1. 活字メディアの分析

文学作品だけではなく、雑誌記事や広告など活字によって表現されるメディアの分析

2. 出版文化についての考察

出版文化と文学との関わりについての考察

研究内容

■ 芥川龍之介の研究



普及版『芥川龍之介全集』広告(1934年)

国語教科書の定番教材「羅生門」の作者として、その名を広く知られる近代作家・芥川龍之介は、今や日本以外の諸外国でも作品が読まれており、その意味では日本を代表する小説家だといえます。このとき問題となるのは、そのような有名作家の作品を読む読者の「読み」が、その作家の持つイメージによって拘束されてしまうということです。

しかし、芥川だけにとどまらず、作家像は出版ジャーナリズムなどの様々なメディア言説によって語られたものであり、各時代の社会状況や出版者のメディア戦略などによって歴史的に構築されて

きたものでもあります。この創られた作家像を読みほどこき、改めて作家に対する評価や作品の読解を行っています。

■ 近代出版文化と文学場の研究

近代は出版技術の発展により、特に大正期以降、出版ジャーナリズムがほぼ今日的なかたちに成長することで、作家・編集者・出版人・読者、雑誌・文学賞・出版社・書店などから形成される「文学場」(P・ブルデュー)が誕生しました。現在でも私たちは文学に対して「社会や経済を超越した何か」という信仰にも似た感想を抱きがちですが、その価値観自体が「文学場」の中で形成されてきたものなのです。そこで文学が出版文化からどのような影響を受け、読者はそれをどのように受容してきたのかを考察します。また、今後、電子書籍が普及していったとき、これまで紙媒体の中で表現されてきた文学がどう変質していくのかも考察対象として考えています。

主な使用機器・設備など

特になし

産学連携に関する実績

特になし